

第4回はなんと36名(申込は41名)の参加がありました。市内の4人の先生を講師として、演習やクイズを交えながら楽しく学ぶことができました。たくさんのお土産も用意していただき、参加した皆さんは「すぐにでも使いたい!」と大喜びされていました。4人の先生方に、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



「かゆいところに手が届く学級経営」(長船中学校 原史尚 教諭)

「生徒たちでできることを増やす」「生徒の“自分らしさ”を発揮させる」「自分たちで価値をもたせる」子どもたちが主体となる学級づくりを“仕掛ける”ことが大事です。そして、同僚たちと仕事を楽しみましょう!

子どもが納得できることはやる気も出るし、信頼にもつながっていくのだなと思いました。

1ランク上の学級経営のためには、子どもたちにできることを増やすこと、というのが印象に残りました。

あたかも自分たちでやったかのような仕掛けが大事なんだと感じました。

「気になる子どもとの面談の仕方」(呂久小学校 佐藤満 教諭)

教育相談は、直そうとする(指導する)場ではなく、分かろうとする(共感や寄り添う)ことが大切です。言葉よりも「表情」に注目し、子どもの思いや気持ちをうまく引き出してあげましょう。

どんな暗い気持ちや言葉でも、捉え方によってポジティブな方向に変わることを知りました。表情カードは大変参考になりました。

「なおそうとするな。わかろうとせよ。」という言葉がとても印象的でした。子どもたちのことが知りたくて、質問攻めにしていたなと反省しました。

「墨の香いのしない書写教育」(牛窓北小学校 恒次宏晃 教頭)

正しい字を書くためには、持ち方、姿勢、書き順…すべて“基本”があり、すべて理由があります。学習規律やスタンダードなども同じで、その理由を知った上で「基本」を指導し続ける(一極める)教師になってください!

普段「姿勢をよくしなさい」とよく言うのですが、その本当の意味まで考えたことがありませんでした。改めて大事にしないとイケないなと思いました。

硬筆のことから、「基礎」の大切さやなぜそういうことをするのかと考えることが大切ということを知ることができました。

「ペン1本でできる最新アート」(呂久中学校 杉本正章 指導教諭)

ゼンタングルアートは正解もなければ失敗もない!短期集中、単純作業。だから誰でもできるのです。集中力アップ!ストレス解消!子どもたちと一緒にやってみてください。もしかしたら普段見られない能力が開花するかも!?

絵や美術に対する苦手意識がとれていくなあと感じて楽しかったです。「ヒラメキ」を大切に、思ったことを表現できるのは大切だと思いました。

全く知らない指導方法が分かり、大変ありがたいです。小学校でも実践できると思いました。「ヒラメキ」という言葉、大切にしたいです。

中学校の先生の専門性に改めてすごいと思いました。

